

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年10月20日(2011.10.20)

【公表番号】特表2008-543878(P2008-543878A)

【公表日】平成20年12月4日(2008.12.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-048

【出願番号】特願2008-517207(P2008-517207)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	47/18	(2006.01)
A 6 1 K	47/26	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 6 1 K	47/02	(2006.01)
A 6 1 K	47/04	(2006.01)
A 6 1 K	47/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/22	(2006.01)
A 6 1 K	31/573	(2006.01)
A 6 1 K	9/19	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 P	27/06	(2006.01)
C 0 7 K	7/06	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	47/18	
A 6 1 K	47/26	
A 6 1 K	47/10	
A 6 1 K	47/36	
A 6 1 K	47/02	
A 6 1 K	47/04	
A 6 1 K	47/12	
A 6 1 K	47/22	
A 6 1 K	31/573	
A 6 1 K	9/19	
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 P	27/02	
A 6 1 P	43/00	1 0 5
A 6 1 P	31/00	
A 6 1 P	27/06	
C 0 7 K	7/06	Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月5日(2011.9.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アミノ酸配列 L K K T E T もしくはその保存的変異体、 L K K T N T もしくはその保存的変異体、 K L K K T E T 、 L K K T E T Q 、サイモシン 4 (T 4) 、 T 4 のイソ型、類似体もしくは誘導体、 T 4 スルホキシド、 T 4 の N - 末端変異体、 T 4 の C - 末端変異体、 T 4^{ala} 、 T 9 、 T 10 、 T 11 、 T 12 、 T 13 、 T 14 、 T 15 、ゲルゾリン、ビタミン D 結合タンパク質 (D B P) 、プロフィリン、コフィリン、デパクチン、 D N a s e I 、ビリン、フラグミン、セヴェリン、キャッピングタンパク質、 - アクチニンあるいはアキュメンチンを含むペプチド剤、または、前記ペプチド剤の生産を刺激する刺激剤の、被験体の眼内圧亢進を治療するための医薬の製造における使用であって、

前記医薬は、眼科的に許容され得る組成物として製剤されている、使用。

【請求項2】

前記ペプチド剤は、アミノ酸配列 K L K K T E T 、アミノ酸配列 L K K T E T Q 、 T 4 、 T 4 の N - 末端変異体、 T 4 の C - 末端変異体または T 4 のイソ型を含む、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

前記ペプチド剤は T 4 を含む、請求項1に記載の使用。

【請求項4】

前記組成物は水性媒体を含む、請求項1に記載の使用。

【請求項5】

前記ペプチド剤は、前記水性媒体中に、約 0.001 ~ 1,000 m g / m L の範囲の濃度で存在している、請求項4に記載の使用。

【請求項6】

前記眼内圧亢進は、緑内障によるものである、請求項1に記載の使用。

【請求項7】

前記眼内圧亢進は、コルチコステロイドの使用によるものである、請求項1に記載の使用。

【請求項8】

被験体の眼内圧亢進を治療するための医薬を調製するために用いられる、アミノ酸配列 L K K T E T もしくはその保存的変異体、 L K K T N T もしくはその保存的変異体、 K L K K T E T 、 L K K T E T Q 、サイモシン 4 (T 4) 、 T 4 のイソ型、類似体もしくは誘導体、 T 4 スルホキシド、 T 4 の N - 末端変異体、 T 4 の C - 末端変異体、 T 4^{ala} 、 T 9 、 T 10 、 T 11 、 T 12 、 T 13 、 T 14 、 T 15 、ゲルゾリン、ビタミン D 結合タンパク質 (D B P) 、プロフィリン、コフィリン、デパクチン、 D N a s e I 、ビリン、フラグミン、セヴェリン、キャッピングタンパク質、 - アクチニンあるいはアキュメンチンを含むペプチド剤、または、前記ペプチド剤の生産を刺激する刺激剤であって、

前記医薬は、眼科的に許容され得る組成物として製剤されている、ペプチド剤または刺激剤。

【請求項9】

前記ペプチド剤は、アミノ酸配列 K L K K T E T 、アミノ酸配列 L K K T E T Q 、 T 4 、 T 4 の N - 末端変異体、 T 4 の C - 末端変異体または T 4 のイソ型を含む、請求項8に記載のペプチド剤または刺激剤。

【請求項10】

前記ペプチド剤は T 4 を含む、請求項8に記載のペプチド剤または刺激剤。

【請求項 1 1】

前記組成物は水性媒体を含む、請求項 8 に記載のペプチド剤または刺激剤。

【請求項 1 2】

前記ペプチド剤は、前記水性媒体中に、約 0.001~1,000 mg / mL の範囲の濃度で存在している、請求項 1 1 に記載のペプチド剤または刺激剤。

【請求項 1 3】

前記眼内圧亢進は、緑内障によるものである、請求項 8 に記載のペプチド剤または刺激剤。

【請求項 1 4】

前記眼内圧亢進は、コルチコステロイドの使用によるものである、請求項 8 に記載のペプチド剤または刺激剤。

【請求項 1 5】

pH が約 6.8~8.1 であり、かつ、アミノ酸配列 L K K T E T もしくはその保存的変異体、L K K T N T もしくはその保存的変異体、K L K K T E T、L K K T E T Q、サイモシン 4 (T 4)、T 4 のイソ型、類似体もしくは誘導体、T 4 スルホキシド、T 4 の N - 末端変異体、T 4 の C - 末端変異体、T 4^{ala}、T 9、T 10、T 11、T 12、T 13、T 14、T 15、ゲルブリン、ビタミン D 結合タンパク質 (DBP)、プロフィリン、コフィリン、デパクチン、DNase I、ビリン、フラグミン、セヴェリン、キャッピングタンパク質、- アクチニンあるいはアキュメンチンを含むペプチド剤、または、前記ペプチド剤の生産を刺激する刺激剤を含有する組成物の、被験体のドライアイ症候群を治療するための眼科的に許容され得る医薬の製造における使用。

【請求項 1 6】

前記ペプチド剤は、アミノ酸配列 K L K K T E T、アミノ酸配列 L K K T E T Q、T 4、T 4 の N - 末端変異体、T 4 の C - 末端変異体または T 4 のイソ型を含む、請求項 1 5 に記載の使用。

【請求項 1 7】

前記組成物は水性媒体を含む、請求項 1 5 に記載の使用。

【請求項 1 8】

前記ペプチド剤は、前記水性媒体中に、約 0.001~1,000 mg / mL の範囲の濃度で存在している、請求項 1 7 に記載の使用。

【請求項 1 9】

前記ペプチド剤は T 4 を含む、請求項 1 5 に記載の使用。

【請求項 2 0】

前記組成物は、連日投与に適したものである、請求項 1 5 に記載の使用。

【請求項 2 1】

前記組成物は、1 日 2 回以上の投与に適したものである、請求項 2 0 に記載の使用。